



江戸無血開城百五十年

西郷隆盛と幕末三舟の書展

—— 書より見た英雄の無心のはたらき ——

2018年 7月16日(月) ▶ 22日(日)

【会場】加島美術 午前10時～午後6時(最終日は午後5時まで)

会期中無休・入場無料

主催：西郷隆盛と幕末三舟の書展実行委員会

協賛：全生庵 加島美術 山本海苔店 銀座木村屋 ハウスメイト イカリ消毒

小川山岡鉄舟会 静岡・山岡鉄舟会 山岡鉄舟研究会 高橋泥舟顕彰会 二松学舎大学

荘内南洲会 致道博物館 本間美術館

後援：公益財団法人日本武道館 公益財団法人日本書道美術館 公益社団法人国民文化研究会



「西郷隆盛と幕末三舟の書展」

～ 書より見た英雄の無心のはたらき ～

2018年7月16日(月)～2018年7月22日(日)

加島美術(東京都中央区京橋3-3-2) 会期中無休/観覧無料/展示点数:約50点

この度、加島美術(東京・京橋)では、2018年7月16日(月)～7月22日(日)にかけて「西郷隆盛と幕末三舟の書展 ～書より見た英雄の無心のはたらき～」を開催致します。幕末三舟とは、勝海舟、高橋泥舟、山岡鉄舟ら、その名に「舟」の字を持つ三人の能筆の総称です。本年は明治維新から150年の節目の年にあたります。この節目の年にあって、西郷隆盛(南洲)と幕末三舟(勝海舟、高橋泥舟、山岡鉄舟)の遺墨展を開催することとなりました。

加えて、本展示会の開催に伴いまして「幕末遺墨鑑定会」を発足しました。この「幕末遺墨鑑定会」では、勝海舟、高橋泥舟、山岡鉄舟、徳川慶喜をはじめとした、幕末の作品の鑑定を行います。お手持ちの作品の真贋が知りたいなどのご相談も受け付けます。

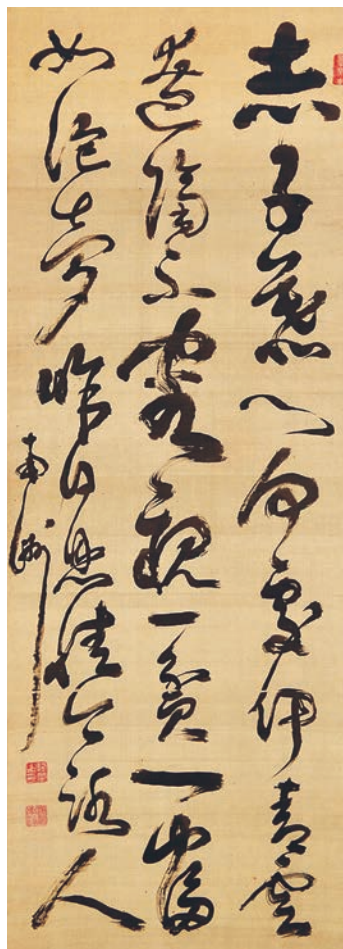
▶ 「西郷隆盛と幕末三舟の書展」のコンセプト

明治維新から150年を迎える本年、この節目の年とも言える年に、幕末に活躍した彼らの直筆に改めて向き合う機会を設けます。その意義は、時代の変革期の荒波を乗り越えた彼らの発するメッセージを、伝えることです。それらは、平成の時代の終わりを迎えようとしている現在の私たちにとって、これから歩むべき方向を探る一助となるはずです。同時に、本展が維新に関係した先人たちの再評価に寄与できれば幸いです。

▶ 本展の見どころ

西郷隆盛(南洲)と幕末三舟(勝海舟、高橋泥舟、山岡鉄舟)、彼らは明治の世になり多くの書を揮毫しました。幕末の世を力強く生き抜き、日本の未来を切り拓いた彼らの、四人四様の書を見較べることに、本展の面白さがあります。「敬天愛人」の語に代表されるような天地への畏敬と慈愛の溢れる南洲の書、グローバルな視野に立った自由闊達な海舟の書、槍の理法をもってして志を貫いた泥舟の実直な書、自己陶冶に徹し剣術と禅を極めた篤実な鉄舟の書。書風の違いを楽しむことで、彼らのひととなりを感じてください。

また、これらの作品が、明治維新150年という節目の年に、一堂に会する機会は大変貴重なものです。ぜひお見逃しなくご覧ください。



西郷 南洲「赤子慕心…」三行書



勝 海舟「一寸赤心惟報国」

▶ 開催概要

西郷隆盛と幕末三舟の書展

～ 書より見た英雄の無心のはたらき ～

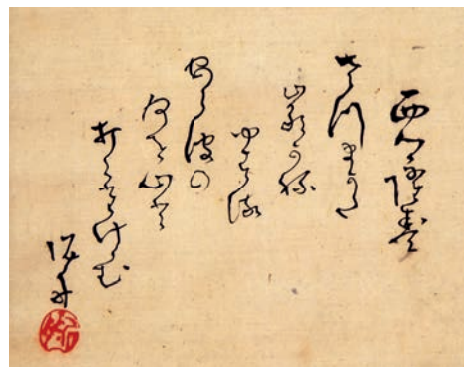
日時 2018年7月16日(月) - 2018年7月22日(日)
10:00 - 18:00 ※会期中無休

会場 加島美術
〒104-0031 東京都中央区京橋3-3-2
TEL:03-3276-0700

入場料 無料

作品点数 約50点

WEB <http://www.kashima-arts.co.jp/events/sanshu/index.html>
(近日公開予定)



高橋 泥舟「西郷隆盛を悼む和歌」



山岡 鉄舟「龍日獻四海水」

「幕末遺墨鑑定会」について

勝海舟、高橋泥舟、山岡鉄舟、徳川慶喜のほか、幕末の作品の鑑定を専門に行う鑑定会を発足いたします。有識者で構成される、初の幕末遺墨専門の鑑定会となります。株式会社加島美術が受付窓口となり、月に一回お持ち込みいただいた作品の鑑定会を行い、真作と鑑定された作品には、鑑定証書を発行いたします。鑑定会の収益金の一部は幕末作品の保存や修復に充てられます。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先



株式会社 加島美術
広報担当: 渡邊、後藤
電話番号: 03-3276-0700
E-mail:
info@kashima-arts.co.jp
Webページ:
<http://www.kashima-arts.co.jp>



アクセス: 地下鉄銀座線「京橋駅」出口3 徒歩1分
地下鉄有楽町線「銀座一丁目駅」出口7 徒歩2分
都営浅草線「宝町駅」A4 徒歩5分
JR 東京駅 八重洲南口 徒歩6分